



おきたま病院

第3号

病院理念

心かよう信頼と安心の病院

運営方針

- 1 患者本位の医療を展開いたします。
- 2 高度・救急医療を提供いたします。
- 3 健全経営の確保に努めます。
- 4 人材を育成いたします。
- 5 地域連携の推進に努めます。
- 6 快適な療養環境を提供いたします。



目次

- 質の高い医療の提供を常に念頭に ②
～地域連携と医療情報ネットワークの充実～
- 医師紹介 ③
- 外来診療体制をお知らせします ④
- 置賜地域医療情報ネットワークシステム (OKI-net) が稼働!! ⑤
- シリーズ健康講座・診療科紹介
- 肺炎・インフルエンザ予防について ⑥
- 病院利用のご案内、お知らせ ⑧

～ 各種指定等 ～

- ◆救命救急センター
- ◆地域がん診療連携拠点病院
- ◆災害拠点病院
- ◆第二種感染症指定医療機関
- ◆へき地医療拠点病院
- ◆臨床研修指定病院
- ◆SARS 入院治療指定病院
- ◆エイズ治療拠点病院



質の高い医療の提供を常に念頭に

～地域連携と医療情報ネットワークの充実～

置賜広域病院組合 医療監
(兼) 公立置賜総合病院 院長
しん ざわ はる ひで
新 澤 陽 英

はじめに

はじめに、このたびの東日本大震災により被害を受けられました皆様に心からお見舞いを申し上げます。くれぐれも健康に留意され、一日も早い復旧をされますよう心からお祈り申し上げます。

東日本大震災における本院の対応

公立置賜総合病院にあっては、災害拠点病院（地震等の大規模災害発生時に初期救急の拠点となる病院）の指定を受け、災害時にはすぐに出勤できる「災害派遣医療チーム（DMAT）」を設置しております。このたびの3月11日の地震発生時にあっても即応体制をとり、同日中に被災地の仙台市へ緊急派遣し、初期救急医療の任務にあたったところでございます。

その後においても、山形県と連携し、救急患者や人工透析患者の受け入れ、そして、日本赤十字医療班としての近隣の避難所や被災地への医療支援などの活動を行い、現在も継続して医療支援の役割についているところでございます。

職員一同は、災害拠点病院としての使命、果たすべき役割を深く認識し、医療に携わる者として被災地のために少しでもお役に立ちたいと願っており、「がんばろう！東北」を合言葉に被災地が復興される日まで支援を行う所存でありますので、地域の皆様のご理解、お力添えをお願いいたします。

本院の良質な医療提供に向けた取組

さて、公立置賜総合病院は、心筋梗塞、脳卒中、頭部外傷などの重篤救急患者の救命蘇生診療を行う三次救急医療機関として救命救急センターを併設し、また、「災害拠点病院」のほか、「地域がん診療連携拠点病院」、「第二種感染症指定医療機関」、「SARS入院治療指定病院」、「エイズ治療拠点病院」、「臨床研修指定病院」の施設認定を受けており、日々、高度・専門医療の提供体制の充実や安全で安心な医療の提供に努めてまいりました。

昨年12月には、病院の機能を学術的で中立的な立場から評価を行う公益財団法人日本医療機能評価機構の機能評価審査を受け、その結果、認定基準をクリアするとして本年の5月6日に認定証の交付を受けたところです。この認定の意味するところは、良質な医療の提供に取り組み、かつ、継続して質の改善や向上に取り組んでいる姿勢が評価されたものであります。

置賜地域での医療連携の取組

また、開院当初から置賜総合病院と長井病院、南陽病院及び川西診療所の各サテライト医療施設並びに飯豊町国保診療所では電子カルテシステムを共用し、診療情報の共有化を図っておりましたが、昨年度からはさらに、置賜地域内の医院、病院との医療情報ネットワーク構築について検討を進めてまいりました。

その結果、本年7月から当院で治療を受けた患者さんの診療情報について、患者さんの同意の基に「かかりつけの医院、病院」でもネットワーク上で参照ができる置賜地域医療情報ネットワークシステム（OKI_net）の運用を開始することとなりました。

これは、安全で良質な医療を地域の中で一貫して提供する医療連携の基盤として有用なネットワークシステムであり、普段の健康管理、比較的症状の軽い病気や慢性症状についてはお近くの医院、病院で診察を受け、高度・専門的な検査や治療、入院治療が必要になった場合には、紹介により当院で診察を受けていただくことで、医療資源を有効に活用し、より一層スムーズな医療機能の提供を図りたいと考えております。

むすび

当病院組合は『心かよう 信頼と安心の病院』を病院運営の基本理念として掲げています。

将来にわたって地域住民から信頼され、質の高い医療サービスを提供し続けるという社会的使命を今後とも果たして参りますので、地域住民の皆様や各関係機関の一層ご理解、ご支援を重ねてお願いいたします。

皆さまを診療する当院の医師を紹介します

平成 23 年 7 月 1 日現在

☆詳しくは、当院ホームページの
「診療科・部門のご案内」⇒
「診療科」をご覧ください。

診療科・職名	氏名
院長	新澤 陽英
副院長(兼)人間ドック室長	豊野 充
副院長(兼)輸血部長(兼)医療安全部長(兼)内科(血液)科長	佐藤 伸二
副院長(兼)医療情報部長	薄場 修
内科	
(消化器)	
診療部長(内科系一)	齋藤 孝治
科長(兼)内視鏡室長	渡辺晋一郎
医長	武田 忠
	大村 清成
	安藤 嘉章
	柄澤 哲
	高野 潤
医師	赤松 学
	秋葉昭多郎
	池田 真士
	東海林正邦
循環器内科	
科長	角田 裕一
医長	山内 聡
医師	北原 辰郎
	加藤 重彦
	横山 美雪
(呼吸器)	
診療部長(内科系三)(兼)科長	稲毛 稔
医長	荒生 剛
医長(兼)救命救急センター医長	小坂 太祐
医師	福崎 幸治
(腎臓・透析)	
医長(兼)人工透析室長	高橋 俊之
医師	星川 仁人
	新野 弘樹
(血液)	
医長	山本 雅一
	軽部 宏紀
医師	瀧澤 大地
(糖尿病・内分泌)	
診療部長(内科系二)(兼)科長	江口 英行
医師	多田 杏子
	安日 智
神経内科	
科長	栗村 正之
小児科	
科長	仙道 大
医長	木島 一己
医師	目黒 亨
	遠藤 臣
精神科	
科長	赤羽 隆樹
医長	鈴木 春芳
	山崎 猛
整形外科	
診療部長(外科系六)(兼)リハビリテーション部長	林 雅弘
科長	大楽 勝之
医長	松木 宏史
	長谷川浩士
	渡邊 忠良
医師	遠藤 誠一
	豊野 修二
	花香 直美

診療科・職名	氏名
外科	
診療部長(外科系一)	小澤孝一郎
外科(一)科長	橋本 敏夫
外科(二)科長	東 敬之
医長	長谷川繁生
	木村 真五
	神尾 幸則
医師	横山 森良
呼吸器外科	
医療連携部長(兼)科長	山田 昌弘
心臓血管外科	
手術部長(兼)科長	後藤 智司
医長	中嶋 和恵
脳神経外科	
診療部長(外科系二)(兼)放射線部長(兼)科長	金城 利彦
医長	土谷 大輔
医師(兼)救命救急センター医師	板垣 寛
産婦人科	
診療部長(外科系五)	沼崎 政良
診療部長(中央診療系)(兼)科長	手塚 尚広
医長	高木 潤一
医師	成味 恵
眼科	
診療部長(外科系三)	高村 浩
科長	上領 勝
医長	高橋 知美
耳鼻咽喉科	
科長	櫻井 真一
医長	大竹 祐輔
	齊藤 史明
形成外科	
非常勤医師(山形大学医学部)	菊地 憲明
皮膚科	
非常勤医師(山形大学医学部)	紺野 隆之
	阿部 優子
	松永 純
	紺野恵理子
	矢口 順子
非常勤医師(山形県職員診療所)	小川 俊一
泌尿器科	
診療部長(外科系四)(兼)科長	久保田洋子
医長	石井 達矢
非常勤医師(斎藤医院)	國井 拓也
歯科口腔外科	
科長(兼)臨床工学室長	安川 和夫
歯科医長	山森 郁
	平 幸雄
麻酔科	
科長	山口 勝也
医長	鈴木 香織
	那須 郁子
医師	藤岡 美穂
放射線科	
科長	伊東 一志
医長	幸田 敦
医師	萩原 靖倫
臨床検査部	
部長	布山 繁美
救命救急センター	
センター長	岩谷 昭美
副センター長(兼)集中治療室長	佐藤 光弥

●●● 当院の外来診療体制をお知らせします

「No」は診察室の番号です。

7月4日から、診察室の番号が通し番号になりました。

☆ 人事異動等により変更になる場合があります。
 来月以降については、当院ホームページの
 「外来・入院等のご案内」⇒「外来担当医師一覧」
 をご覧ください。
 <ホームページ URL > <http://www.okitama-hp.or.jp/>

外来受付時間（予約がない場合） 午前8時30分～午前11時30分
 自動再来受付稼働時間 午前8時00分～午後4時30分

【公立置賜総合病院】

平成23年7月4日現在

診療科	No.	月	火	水	木	金	
内科	午前	5	山本（血液）	佐藤（血液）	高橋（CAPD）		高橋（腎臓）
		6	新患（消化器）	新患（呼吸器）	新患（循環器）	新患（血液）	新患（糖尿病・内分泌）
		7	安藤（消化器）	渡辺晋（消化器）	大村（消化器）	新澤（消化器）	柄澤（消化器）
		8	小坂（呼吸器）	赤松（消化器）	齋藤（消化器）	齋藤（消化器）	高野（消化器）
		9	江口（糖尿病・内分泌）	秋葉（消化器）	江口（糖尿病・内分泌）	福崎（呼吸器）	軽部（血液）
		10	加藤（循環器）	角田（循環器）	稲毛（呼吸器）	北原（循環器）	山内（循環器）
神経内科	午前	5				栗村	
	午後	4		栗村			
小児科	午前	20	仙道	目黒	仙道	仙道	
		21	木島	木島	木島	木島	目黒
精神科	午前	1	鈴木（再来）	赤羽（再来）	鈴木（再来）	赤羽/鈴木(再来)<隔週>	赤羽（再来）
		2	山崎（新患）	鈴木（新患）	赤羽（新患）	山崎（新患）	鈴木（新患）
整形外科	午前	11	林	松木（膝関節）	林	林（脊椎）	松木
		12	遠藤	大楽	長谷川（脊椎）	大楽（股関節）	渡邊（手）
		13	豊野	花香	渡邊	遠藤	長谷川
外科	午前	15	橋本	小澤	橋本	東	薄場
		16	薄場	横山	豊野	小澤	豊野
		17	木村	山田（呼吸器外科）	東	神尾	長谷川
	午後	15	橋本（乳腺外来）		橋本(乳腺外来)<第3週>		
		16			豊野(乳腺外来)<第3週を除く>		
		17					山田（呼吸器外科）
心臓血管外科	午前	14		後藤（再来）		後藤（再来）	
		14		後藤（新患・再来）		後藤（新患・再来）	
	午後	16		中嶋		中嶋	
脳神経外科	午前	3	金城	金城	金城	金城	
		4	土谷	土谷	土谷	土谷	板垣
	午後	3					金城
産婦人科	午前	28	高木	成味	高木	成味	成味
		29	手塚（婦人科）	沼崎（婦人科）	手塚（婦人科）	沼崎（婦人科）	高木（婦人科）
		30	沼崎（産科）	手塚（産科）	沼崎（産科）	高木（産科）	手塚（産科）
眼科	午前	26・27	高村・上領・高橋	高村・高橋	高村・上領	上領・高橋	高村・高橋
耳鼻咽喉科	午前	23	櫻井	櫻井	齋藤	櫻井	櫻井
		25	齋藤	大竹	大竹	大竹	齋藤
形成外科	午前	18				山大 菊地	
皮膚科	午前	18	山大 紺野隆	山大 松永	山大 阿部(10:15～)		
		19		山大 矢口			山大 紺野恵
	午後	19				県職員診療所 小川	
泌尿器科	午前	31	(米沢) 斎藤医院 國井	山大	恩村	山大	
		32	石井	久保田	石井	久保田	(米沢) 斎藤医院 國井
歯科口腔外科	午前	33	安川（新患・再来）	安川（新患・再来）	安川（新患・再来）	安川（新患・再来）	安川（新患・再来）
		34	山森（新患・再来）	山森（新患・再来）	山森（新患・再来）	山森（新患・再来）	山森（新患・再来）
		35	平（新患・再来）	平（新患・再来）	平（新患・再来）	平（新患・再来）	平（新患・再来）
麻酔科	午前	—	山口 / 鈴木 / 那須		山口 / 鈴木 / 那須		
緩和ケア外来	午前	14				那須	

※「山大」とは、山形大学医学部からの応援医師です。

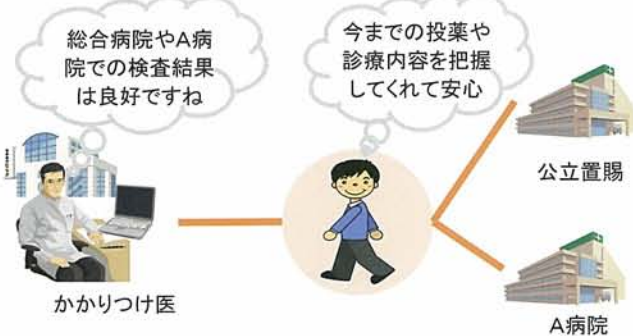
置賜地域医療情報ネットワークシステム(OKI-net)が稼働！！

OKI-netとは？

OKI-netとは、患者さんの診療情報(受診歴や投薬、検査結果、画像など)を置賜地域内の医療機関で共有するシステムです。

これにより、医療機関同士の連携が緊密となり、より高度で安全な医療サービスの提供を受けることが可能になります。

現在、当院とサテライト施設を含めた医療機関の診療情報の共有を開始しておりますが、今年度中に米沢市立病院や三友堂病院などを含めた6病院3診療所の診療情報も置賜地域内の医療機関で参照することができ、地域全体で医療の質向上を目指します。



OKI-netを利用するメリットは？

今までは、他病院での検査結果や投薬を聞かれても正確に答えられるか不安が多かったと思いますが、OKI-netを利用することで、検査結果・投薬・注射・画像などの情報が共有化され、正確に診療情報が伝わるようになります。



更に、検査や投薬の重複を防ぐこともできるため、安全で効率的な医療を受けることができます。

個人情報を守られる？

OKI-netで共有される情報は、高度な暗号化処理がされているので盗み出されることはなく、利用できるコンピュータも限定されています。

なお、診療情報を共有するときは、必ず患者さんの同意のもと行うこととしております。



【問合せ先】 医療連携・相談室



公立置賜総合病院は、平成23年5月6日付けで、公益財団法人日本医療機能評価機構から、病院機能評価バージョン6.0の認定をいただきました。

病院機能評価とは、良質な医療の提供に努め、また日々その改善に努めているかどうか、第三者の目で評価してもらう制度です。

職員が一丸となって取り組んだ結果、部門どうしの連携が強まり、良質な医療の提供に不可欠なチーム医療がさらに充実しました。

今後も、更なる医療の質の向上に向けた取り組みを継続し、5年後の更新審査に備えてまいります。

東日本大震災の被災地に、本院からも医療支援のため派遣しています

- ★ 災害派遣医療チーム (DMAT)
 - ・ 3月11日～3月14日
 - ・ 3月14日～3月16日
 宮城県仙台市周辺に5名
- ★ 山形県医療救護班
 - ・ 3月19日～3月20日
 長井市及び南陽市の避難所に3名
- ・ 4月13日～4月17日
- 岩手県宮古市に4名
- ★ 日本赤十字救護班
 - ・ 4月26日～4月28日
 福島県会津若松市周辺に4名
- ・ 5月17日～5月19日
- 福島県会津若松市周辺に4名



肺炎・インフルエンザ予防について

内科 稲毛 稔

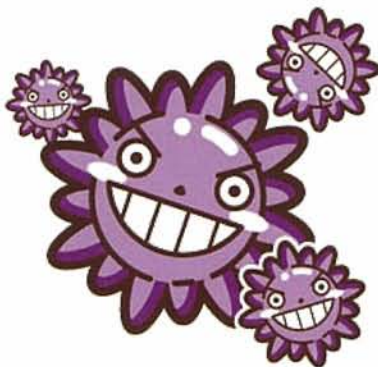
はじめに

暗い闇夜を炎で照らし、猛獣を撃退し、ヒトは自然の中に、人間の世界を広げていきました。アフリカの大地で人類の祖先が二本足で立ち上がり、道具を手にした時から、ヒトは自然と戦い、一方では共存しながら、文明を育んだのではないだろうかと思像します。

しかし、今回の東日本大震災を眼前にするとヒトのおごりを痛感させられました。その一方で、ヒトは何度でも、何度でも、今までも、そうだったように、痛みを耐え立ち上がり、再び自然に挑みかかるものかもしれません。

ヒトと微生物

医療の歴史も同様で、有史以来の大半は細菌やウイルスとの戦いでした。結核を例にとると結核に関する記述は古代エジプト文明や、ヒポクラテスの頃からあり、その正体は掴めず、日本でも亡国病と恐れられていました。1882年にドイツのロベルト・コッホが結核菌を発見しましたが、その治療薬は1945年のストレプトマイシンまで待たなければなりません。まさに有史以来の自然との戦いです。



また、先月まで放送されたテレビ番組「JIN-仁-」でも抗菌薬ペニシリンがキーワードとして登場しました。ペニシリンは元々、青カビが周囲の細菌から自分の身を守るために作っていた物質です。ペニシリンは肺炎の特効薬で、手術や外傷の回復をも早めます。これは、自然

の力を人間が利用したことになるのではないのでしょうか。今の歴史では、ペニシリンは1929年に発見されましたが、実用化は1942年です。実に10年以上歳月を要しています。

21世紀の現在、ペニシリンのほかにも我々は沢山抗菌薬を開発しましたが、それに対抗して、細菌も生き残るためにまた進化しています。ペニシリンが実用化される前に既にペニシリンが効かない肺炎球菌が発見されており、現在では「肺炎球菌」の約半数はペニシリンが効かなくなってきています。新しい抗菌薬を開発しても、またそれに耐える細菌が出現する。ヒトと細菌の果てしない戦いは、イタチごっこになりつつあります。

肺炎・インフルエンザ対策

それでは、これらをふまえつつ、肺炎について考えてみたいと思います。

肺炎は、肺炎球菌などの細菌という敵と、抗菌薬という槍を携えたヒトとの戦いに他なりません。本人の体力と技術と戦術がなければ勝負には勝てません。また、戦いに勝っても本人が致命傷を負っては意味がありません。もっとも、そのような勝負は避けるのが孫子の兵法ですが。

次に、風邪、インフルエンザ、肺炎から身を守る方法を考えていきます。

予防策その1 うがい・手洗い

最も基本的なことは、「うがいと手洗い」です。米国の報告では、うがいと手洗いをきちんと行う子供は風邪などで休む回数が減少すると報告されています。うがいは水道水で十分です。うがいは15秒以上、手洗いは30秒以上が効果的といわれています。また、自分が風邪やインフルエンザに万が一かかった時は、他人にうつさないように口を覆う「咳エチケット」も重要です。



予防策その2 ワクチン接種

また、“インフルエンザワクチン”も重要です。インフルエンザワクチンは成人には感染予防効果が、小児、高齢者には重症化を防ぐ効果があります。しかし、その効力が続くのは半年から1年くらいといわれており、毎年接種する必要があります。

更に“肺炎球菌ワクチン”も効果があります。米国では65歳以上の半数以上は接種しています。致死率が高い肺炎球菌肺炎になった時の重症化や死亡率を下げるといわれており、一度の接種で5年間有効といわれています。インフルエンザに感染するとそれに引き続いて高率に肺炎球菌肺炎になりやすいと報告されていますし、実際の診療でも事例がありますので、インフルエンザワクチンとセットで接種することを勧めます。日本では、接種率は5%くらいにとどまっていますが、公費助成を行う市町村も出てきているようですので、まずはお住まいの自治体に問い合わせてください。



えんげ 嚥下機能（ものを飲み込む能力）との関係

高齢者の肺炎は、誤嚥によるものがほとんどといわれています。特に脳梗塞を患った方や認知症の方は顕著です。健康な高齢者でも、知ら

ぬ間に嚥下機能（ものを飲み込む能力）が衰えて気管にもものが入りやすくなることがあります。誤嚥性肺炎は、喉や口の中の細菌が肺や気管に入って肺炎や気管支炎を発症します。

予防の第一は、口腔ケアです。口腔ケアをすると肺炎の回数が減りますし、常に口の中を刺激すると嚥下がよくなります。

その他の予防策

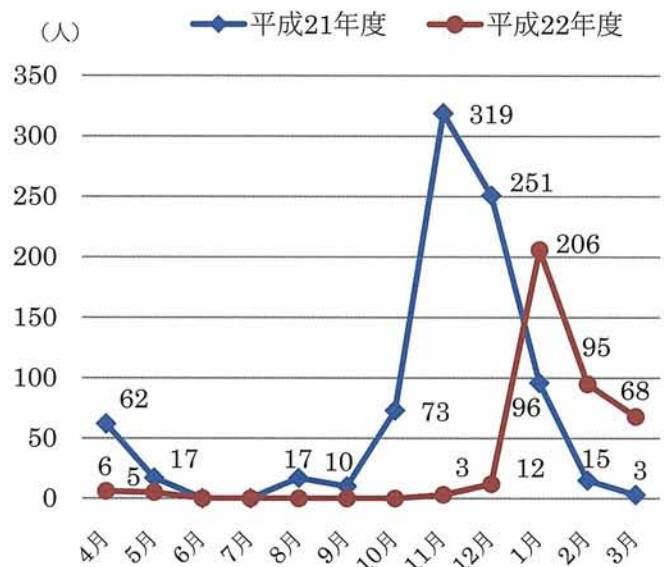
脳梗塞後の治療中の方は再発予防の治療を受けると肺炎の予防になります。変わったところでは、降圧薬のACE阻害薬は血圧を下げる他に誤嚥性肺炎を減らす効果が示されています。食べ物では、カプサイシン（唐辛子の辛い成分）、黒胡椒が誤嚥を防ぐと報告されています。

さいごに

病気になれば誰もが必要な治療が受けられる国民皆保険制度はすばらしい制度ですが、残念ながら現在、予防医学には適応されません。元気で長生きするには各人で予防策を講じる必要があります。

つたない文章でしたが、皆様の健康促進に少しでもお役に立てれば幸いです。

当院におけるインフルエンザ患者数



総合病院のご利用について

紹介状をお持ちください

病院に行ったら、

- 長時間待たされた。しかも診察時間はほんの少しだった…。
 - どの診療科にかかれればよいのかわからない…。
- このような体験はないでしょうか。

かかりつけ医からの紹介状をお持ちいただきますと、それまでの治療経過を活かすことができ、当院での診療がスムーズに行えます。



また、かかりつけ医からあらかじめ連絡をいただき来院日の調整（外来予約）をすることで、来院当日はお待たせすることなく、受診される診療科へご案内することが可能になります。

なお、紹介状を持参せずに来院された場合は、「非紹介患者初診加算料」として、1,570円をご負担いただくことになります。

「かかりつけ医」とは

「かかりつけ医」とは、日頃から私たちの体の状態を把握し、その上で診療や健康管理を行ってくれる身近なお医者さんのことです。



ちょっとした風邪などの病気の際は、待ち時間も比較的少なくて診察してもらえますし、高度な治療や入院が必要な場合は、適切な病院を紹介してもらえますので、いざという時に頼りになります。

お近くの医院をご紹介します

当院での治療の結果、病状が安定しましたら、患者さんのご希望もお伺いした上で、お住まいの近くのサテライト医療施設や診療所等（かかりつけ医）をご紹介します。

また、当院の専門医とかかりつけ医の先生が連携することにより、必要に応じた当院での定期的な診療や検査も、スムーズに受けることが可能になります。

公立置賜総合病院 医療連携・相談室
Tel 0238-46-5000(代) 内線 1902

救命救急センターのご利用について

平成22年度の外来受診者数は21,703名（1日平均：平日47名、休日86名）、入院患者数は3,905名（1日平均11名）です。

診療科別では内科と小児科で全体の約60%になり、発熱症状を訴える患者さんが多いのが特徴です。

救命救急センターでは、救急車で搬送される重篤な患者さんが多く、そのような患者さんを優先して診察することとなりますので、このようなときには長時間お待ちいただくこととなります。

休日（日曜日、祝日）には、地域の医師会で行っている休日診療所が開設されていますので、上手にご利用くださるようお願いいたします。

休日診療所です

長井西置賜休日診療所

- ・診療時間／
9：00～17：00
- ・診療科目／
内科、小児科、外科
- ※受診の際は必ず保険証をお持ちください。
- ・長井市保健センター内
Tel.0238-84-5799

南陽東置賜休日診療所

- ・診療時間／
9：00～17：00
- ・診療科目／
主に内科、小児科
- ※受診の際は必ず保険証をお持ちください。
- ・南陽市栲塚 420-7
Tel.0238-40-3456

医療関係従事者のみなさまへ

当院で予定されている研修・講習会（8月～11月）は次のとおりです。

ご自由に参加できます。詳細については下記事務局にお問い合わせください。

開催予定日	内容等
8月19日(金)	ICT(感染対策チーム)研修会 針刺し切創について
8月25日(木)	救急医療講習会 一特殊な病態— 誤飲・誤嚥と中毒
8月27日(土)・28日(日)	緩和ケア研修会
9月22日(木)	特別講演会 チーム医療と医療安全(仮)
10月 7日(金)	肺血栓塞栓防止に関すること
10月21日(金)	ICT研修会 インフルエンザに関すること
10月27日(木)	救急医療講習会 一腹痛を巡る諸問題—
11月18日(金)	CT研修会 結核に関すること
11月24日(木)	開院11周年記念講演会
主に月の最終火曜日	特別救急講習会
毎月第一木曜日	NST(栄養サポートチーム)研修会

公立置賜総合病院 教育研修委員会事務局
(総務企画課内) Tel.0238-46-5000(代) 内線 2125